

水と緑と
いのちが輝く
こまえ

狛江市生物多様性地域戦略



狛江市

令和2(2020)年 3月

<表紙写真>

西河原公園				
①	③		④	⑥
②			⑤	⑦
⑧	⑨	⑩	⑪	⑬
			⑫	
多摩川河川敷 治水のために設置されたテトラポットの下やすき間も生きものの生息空間になっています。				

- ①カワセミ
- ②ヒガシニホントカゲ（幼体）
- ③狛江水辺の楽校・川流れ体験（多摩川）
- ④ニホンアカガエル
- ⑤カタバミとヤマトシジミ
- ⑥ドクダミ
- ⑦ウマノスズクサに産み付けられたジャコウアゲハの卵
- ⑧狛江弁財天池特別緑地保全地区で自然観察
- ⑨メジロ
- ⑩生きもの調査会 (p34)（野鳥観察）
- ⑪ミナミメダカ
- ⑫オオカマキリ
- ⑬ホンドタヌキ



はじめに

狛江市は都心から近く利便性が高い一方で緑や水辺が多いまちというイメージがあり、それが市の魅力のひとつにもなっています。市の南端を流れる多摩川、北端を流れる野川、狛江駅前の狛江弁財天池特別緑地保全地区といった自然拠点があるほか、かつての川筋を生かした緑道、歴史とともに緑を今に伝える社寺や古墳、まちの成熟とともに成長し続ける街路樹、そして宅地の庭や生け垣の緑等、様々な緑がまちの至るところにあることが、こうしたイメージにつながっているものと思われま

す。自然環境が私たちにもたらしている多くの恵みは、決して当たり前ものではありません。市街地化の進行による緑地・農地の減少が進み、以前は珍しくなかった身近な生きものさえ、近年では見かけることが少なくなっています。身近で当たり前な自然だからこそ、その大切さを意識し、守り・育てていかなければ、気がつかないうちに失われてしまう恐れがあります。

そうした危機感のもと、よりよい自然環境を将来に守り引き継いでいくための考え方や必要な取組を共有し、実践することを目的に、多くの市民の皆様

の知恵や御意見を伺いながら作成したのが、この「狛江市生物多様性地域戦略」です。国内外の生物多様性に係る動向や、市のこれまでの関連する取組等の背景を踏まえつつ、市のまちづくりにおいて“生物多様性の保全と持続可能な活用”を推進するため、市がめざす自然環境像、目標を掲げ、その実現のために必要な取組をまとめました。

策定にあたり、熱心な御議論を重ねていただきました狛江市環境保全審議会委員の皆様、狛江市生物多様性地域戦略策定検討部会部会員の皆様、アンケート調査やパブリックコメント等で御意見をお寄せいただいた皆様にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

市では、本戦略をよりどころとし、市民の皆様とともに、「**水と緑といのちが輝くこまえ**」の実現に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

生きものへのちょっとしたやさしさで、身近な自然と暮らしが寄り添う、水と緑といのちが輝き続ける狛江市をともにめざしましょう！

引き続き、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

令和2年3月

狛江市長 松原 俊雄

目 次

第1章 生物多様性とは 1

- 1.1 生物多様性とは？ 1
- 1.2 なぜ、生物多様性は大切？ 2
- 1.3 生物多様性の危機 3
- 1.4 生物多様性に係る国内外の動向 5
- 1.5 戦略の位置づけ等 9

第2章 生物多様性と狛江市の自然 11

- 2.1 社会的側面から見た特性 11
- 2.2 自然環境から見た特性 16
- 2.3 生物多様性保全に係る市内の活動 34
- 2.4 生物多様性に関する市民意識 35
- 2.5 狛江市の自然と生物多様性に係る課題 38

第3章 戦略の方向性 41

- 3.1 狛江市のめざす自然環境像 41
- 3.2 戦略の10年間でめざす目標 44
- 3.3 戦略の基本方針 49

第4章 基本方針に基づく施策体系 50

基本方針Ⅰ	狛江の自然を守る・調和する・つなぐ	52
基本方針Ⅱ	狛江の自然を知る・伝える・活かす	68
基本方針Ⅲ	狛江の自然のために活動する・協働する	76

第5章 リーディング・プロジェクト 79

プロジェクト1	こまえの水辺づくり	80
プロジェクト2	生きもの育むご近所公園づくり	82
プロジェクト3	生きものをよぶ庭づくり	84
プロジェクト4	こまえ生きもの探検隊	86
プロジェクト5	生きもの育む学校・人づくり	87

第6章 戦略の進め方 88

6.1	取組推進の考え方	88
6.2	戦略の進捗管理	90

資料編 91